

決算報告



▲決算の概要



▲用語解説

令和4年度の一般・特別・企業会計の決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

問 一般・特別会計 … 財政課 ☎088・684・1221
企業会計 …………… 水道企画課 ☎088・685・3330

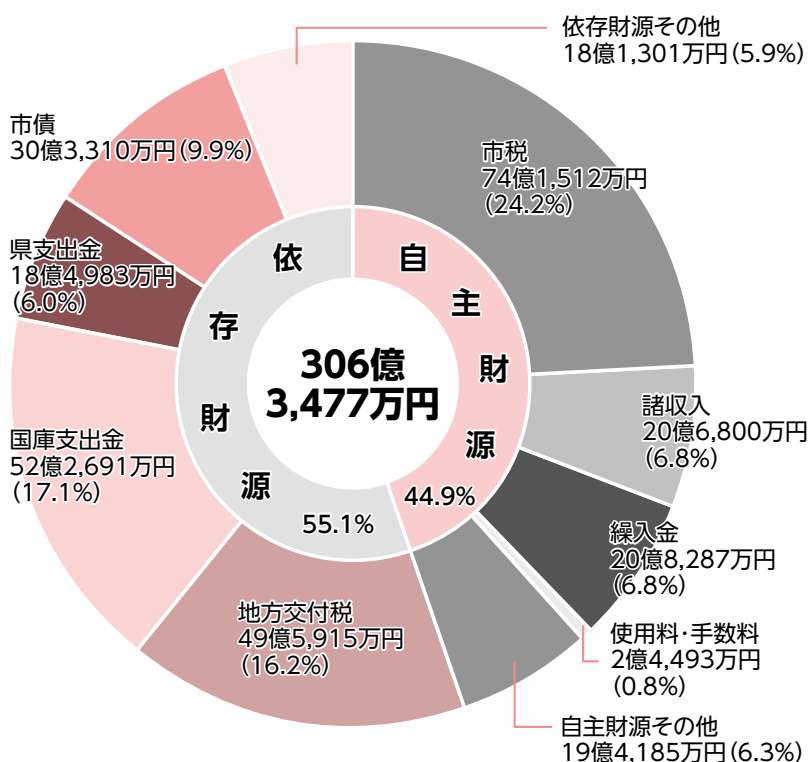
※金額は千円以下を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

一般会計

歳入総額

306億3,477万円

(前年度 357億4,206万円)



歳入・歳出とともに過去3番目の決算規模

令和4年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策をはじめ、市民生活や地域活動などへの支援、地域経済対策や物価高騰対策などを優先課題として取り組んだ結果、過去3番目の決算規模となりました。一般会計決算額は、歳入が306億3477万円(前年度比51億730万円減)、歳出は、294億5762万円(前年度比50億5575万円減)となり、歳入ではボートレース事業収益金や、国庫支出金、地方交付税の減、歳出においては、道の駅くるくるなると「整備事業費、基金積立金の減などが主な要因として挙げられます。

歳入決算の概要

市税



市民税、固定資産税の増などにより、全体として前年度から約2億2022万円の増額となりました。

諸収入



収益事業収入の減などにより、前年度から約38億4947万円の減額となりました。

繰入金



財政調整基金や庁舎整備基金からの繰入金が増などにより、前年度から約6億5662万円の増額となりました。

地方交付税



前年度から約2億908万円の減額となりました。

国庫支出金



地方創生拠点整備交付金の減などにより、前年度から約14億3797万円の減額となりました。

県支出金



徳島県地域医療介護総合確保基金事業費補助金の減などにより、前年度から約2億2855万円の減額となりました。

市債



道の駅整備事業に伴う総合戦略推進事業債の減などにより、前年度から3億9410万円の減額となりました。

令和4年度決算に基づく健全化判断比率

表中の健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準や財政再生基準を超えた場合、財政健全化を図るための「財政健全化計画」あるいは「財政再生計画」を定めなければならず、また、一部の市債発行が制限されるようになります。

本市の令和4年度決算における4指標は、実質公債費比率、将来負担比率とともにほぼ横ばいで推移しています。現時点では早期健全化団体の基準を下回っているものの、今後も多額の投資的経費が必要になると予想されることから、引き続き注視する必要があります。

健全化判断比率	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
令和4年度決算数値	－％(△6.38%)	－％(△203.51%)	12.3%	89.7%
早期健全化基準	12.88%	17.88%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.00%	30.00%	35.0%	

※－％は黒字のため実質赤字・連結実質赤字比率がないことを表します。また、()の数値は黒字の比率をマイナス表記で示しています。

歳
入から歳出を引いた形式収支は11億7714万円の黒字となりましたが、これは基金や市債を活用し、収支を保っている状態であり、依然として厳しい財政状況といえます。

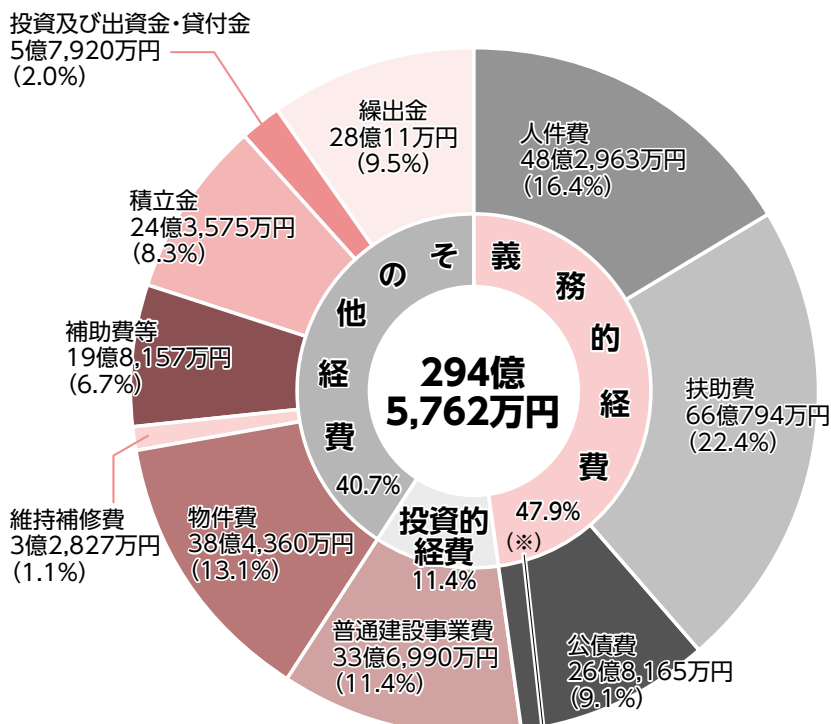


一般会計

歳出総額

294億5,762万円

(前年度 345億1,338万円)



※前年度から約6億6,584万円の減額となりました。

歳出決算の概要

扶助費



子育て世帯や住民税非課税世帯等への臨時特別給付金給付事業費の減などにより、約5億8981万円の減額となりました。



公債費



積み上げにより全体で約9585万円の減額となりました。

普通建設事業費



道の駅整備事業費の減などにより、全体として約8億9679万円の減額となりました。

補助費等



新型コロナウイルス感染症に係る経済対策事業費の減などにより、全体として約2億5122万円の減額となりました。

積立金



財政調整基金(市の貯金)への積立金の減などにより、全体として約36億4985万円の減額となりました。

繰出金



国民健康保険事業などへの繰出金の減などにより、全体として約5459万円の減額となりました。

特別会計

一般会計と別に設けられ、独立した経理管理が行われる会計

(歳入－歳出)

▼国民健康保険事業…差引額 +8,116万円

【歳入総額】 71億4,936万円

- ▶ 国民健康保険料…………… 13億4,505万円(18.8%)
- ▶ 一般会計からの繰入金… 6億2,794万円(8.8%)

【歳出総額】 70億6,820万円

- ▶ 保険給付費…………… 49億8,677万円(70.5%)

会計名	歳入総額	歳出総額	差引額
光熱水費等支出	7億5,058万円	7億5,058万円	0円
給与費等管理	47億9,283万円	47億9,283万円	0円
公債費管理	26億8,165万円	26億8,165万円	0円

▼後期高齢者医療…差引額 +3,955万円

【歳入総額】 10億5,348万円

- ▶ 後期高齢者医療保険料… 7億4,766万円(70.9%)
- ▶ 一般会計からの繰入金… 2億6,920万円(25.6%)

【歳出総額】 10億1,393万円

- ▶ 広域連合納付費…………… 9億8,854万円(97.5%)

▼介護保険事業…差引額 +5億6,954万円

【歳入総額】 70億8,191万円

- ▶ 介護保険料…………… 13億8,513万円(19.6%)
- ▶ 一般会計からの繰入金… 10億6,638万円(15.1%)

【歳出総額】 65億1,237万円

- ▶ 保険給付費…………… 58億6,216万円(90.0%)

企業会計

地方公共団体が運営する地方公営企業会計

◎モーターボート競走事業

令和4年度においては、SG第25回チャレンジカップ競走およびGⅡ第9回レディースチャレンジカップ競走や、GⅠ第66回四国地区選手権競走などのグレードレースを開催しました。また、6月には1レースのスタート展示時刻を繰り上げる「スーパーモーニング」を開始するとともに、10月からは「ボートレースチケットショップ阿波かもじま」を開設しました。年間開催日数は162日、有料入場人員は108,533人。

		前年度比
舟券売上金	714億6,772万円	13.3%増
総収益額	750億7,231万円	12.7%増
総費用額	675億2,308万円	4.9%増
純利益額	75億4,924万円	
一般会計への繰出金	13億円	
まちづくり基金への繰出金	1億円	

◎水道事業

令和4年度の給水人口は54,300人、給水量(有料分)は816万6,233^ト(0.7%減)でした。

		前年度比
総収益額	13億5,594万円	0.5%減
総費用額	11億1,707万円	0.8%減
純利益額	2億3,887万円	

◎下水道事業

令和4年度の使用戸数は1,726戸、排除汚水量は49万9,157^トでした。

		前年度比
総収益額	7億7,915万円	0.7%増
総費用額	7億147万円	1.0%減
純利益額	7,768万円	

今後の財政運営について

令和4年度決算に基づく健全化判断比率についてはほぼ横ばいであったものの、地方自治体の財政構造の弾力性を示す指数である経常収支比率は97.8%と、依然として高い数値で推移しており、引き続き、人件費や扶助費などの経常的経費の抑制に努める必要があります。

また、物価高騰の影響が先行き不透明である一方で、新庁舎整備事業や定住人口の増加に向けた施策など、緊急性の高い課題に対し早急に対応していかなければならず、より一層厳しい財政運営が予想されることから、今後も全市を挙げた行財政改革に積極的に取り組み、財政の健全化を図ります。